



しののめYMCAこども園

園だより

2016年度1月号

発行者：こども園園長 堀江和広

聖句「互いに愛し合いなさい」

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

これがわたしの掟である。

1月の聖句「光の子として歩みなさい」 エフェソへの信徒への手紙 第5章8節

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年も園だよりに書いたのですが、私たちは年に3回新たな気持ちになり、決意や願ひ、そして夢を抱く機会が有ると言われています。それは、元旦、自分の誕生日、お仕事をしている方であれば年度初めだそうです。新しい年、皆さんはどんな決意や願ひ・夢を持って迎えられるのでしょうか。

正月を迎えると、ひとつ年をとります。保護者の皆さんも小さな赤ちゃんの時代が有りました。皆さんのお子さんも、数年前には可愛い赤ちゃんでした。出産前は「男の子が欲しいなあ・・・」「女の子が欲しいなあ・・・」と願ひや期待をめぐらせた事と思います。

しかし、はじめて赤ちゃんと対面した時はどうでしょう？男の子が良い！女の子が良い！という願ひや期待よりも、元気かな？大丈夫かな？という事が頭に浮かんだのではないかと思います。落ち着きを取り戻して、「元気で健やかに育って欲しい」と願ひ、思ったのではないのでしょうか。

生まれた時には「元気で健やかに育って欲しい」という期待と願ひだけだったのが、年令を重ねていく度に、「こうなって欲しい」「ああなって欲しい」「どうしてできないの？わからないの？」・・・という様々な期待や願ひ、言い換えればお父さんやお母さん、そして周囲からの「期待と願ひ」が一杯に詰められた重荷を背負っていくのです。

年令を重ね進級や進学をしていきます。ご両親や周囲からの期待や願ひが大きくなっていくのは当然であり、自然な事です。しかし、幼子が背負える重荷は限られていると思います。

無理や背伸びをさせずに「背負う事ができた！」「よし！もう1回頑張ってみよう！」・・・そんな気持ちや自信が湧き出るような重荷を背負わせていく事が、大切なのではないのでしょうか。

期待や願ひが一杯に詰められた重荷を降ろした時、子どもたちは「自己肯定感」という、素晴らしいお土産を手に入れられると思っています。

園長 堀江和広